

2024年3月期 第1四半期

決算説明資料



株式会社 **バァー** ホールディングス

2023年8月10日

〈本資料に関する注意事項〉

予想数値は、当社および連結子会社が現時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって記載の数値と異なる結果となる可能性があります。

➤ 第1四半期連結決算の総括

- ・ 営業収益において、昨年に続き過去最高を更新。
- ・ スーパーマーケット事業では、株式会社バローにおいて、4月に近江八幡店を出店し、既存店売上高が前年同四半期比で2.8%伸張したほか、前期に新規出店を行った株式会社タチヤ、株式会社八百鮮などが寄与。
また、ドラッグストア事業においても、既存店売上高が前年同四半期比で5.9%伸張。当第1四半期に子会社化した企業(昭和フィルム社およびユニードパック社)を連結したこともあり、増収となり過去最高を更新。
- ・ 営業利益・経常利益は過去3番目、純利益は過去4番目の高水準を確保。

➤ 2024年3月期通期業績見通し

- ・ 営業収益7,720億円、営業利益205億円、経常利益233億円、親会社株主に帰属する当期純利益93億円を見込む。

2024年3月期第1四半期の実績



- 営業収益においては過去最高を更新
- 売上総利益率の改善もあり、営業利益以下の各段階利益も増益

(金額単位:百万円)

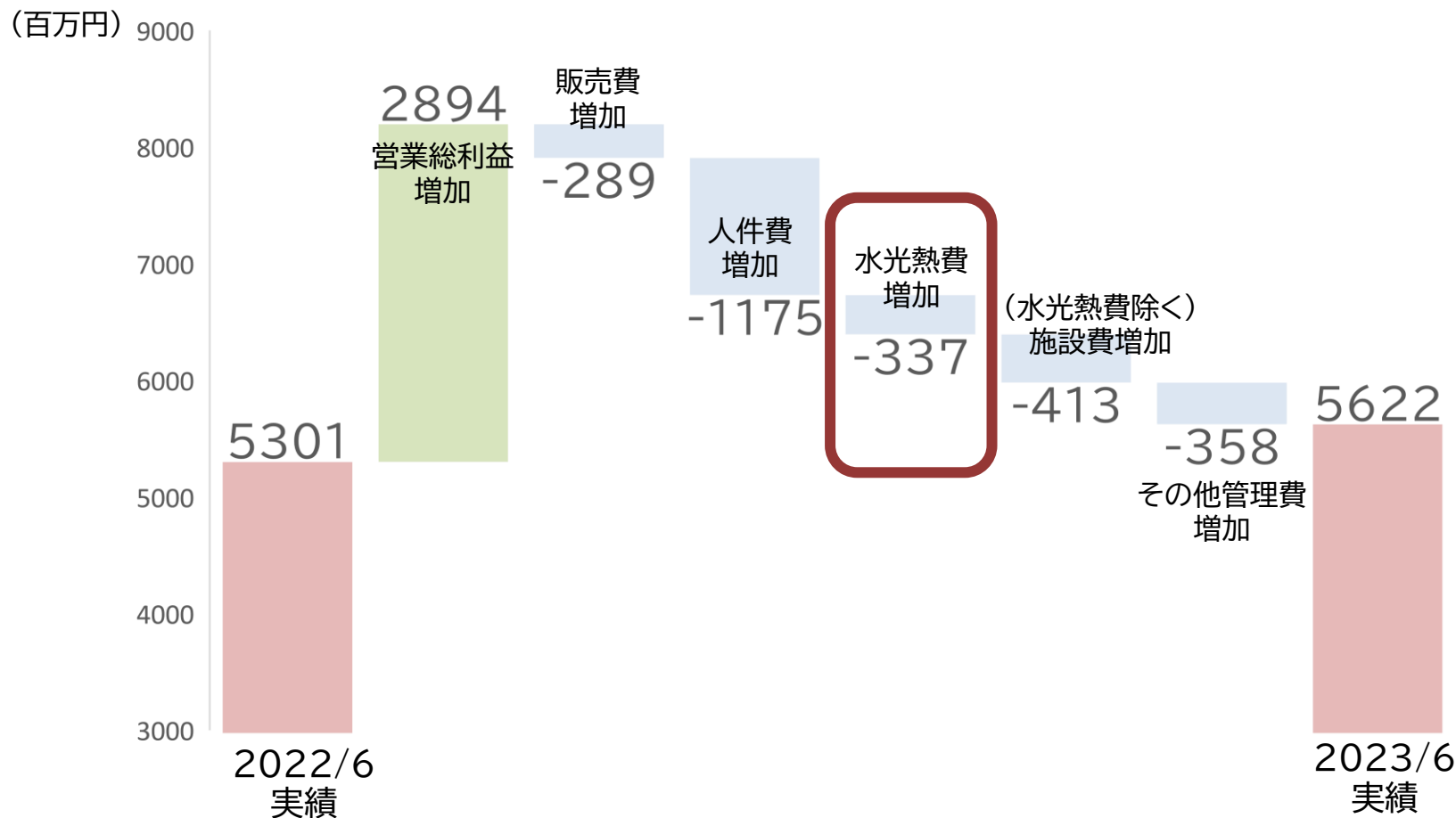
	2020/6	2021/6	2022/6	2023/6		
	実績	実績	実績	計画	実績	計画比
営業収益	183,002	182,601	186,630	192,000	196,270	+2.2%
営業利益	9,038	6,454	5,301	4,980	5,622	+12.9%
経常利益	9,485	7,263	6,040	5,380	6,245	+16.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,644	3,796	3,096	2,780	3,453	+24.2%

EBITDA*	13,258	11,113	10,310	-	10,647	(百万円)
EPS	86.50	70.69	57.66	-	64.48	(円)

*EBITDAについては、営業利益+減価償却費(CFベース)により算定

営業利益の増減要因

- 売上総利益率の改善もあり、営業総利益は約29億円増加
- 水光熱費の上昇は約3億円



セグメント別の経営成績

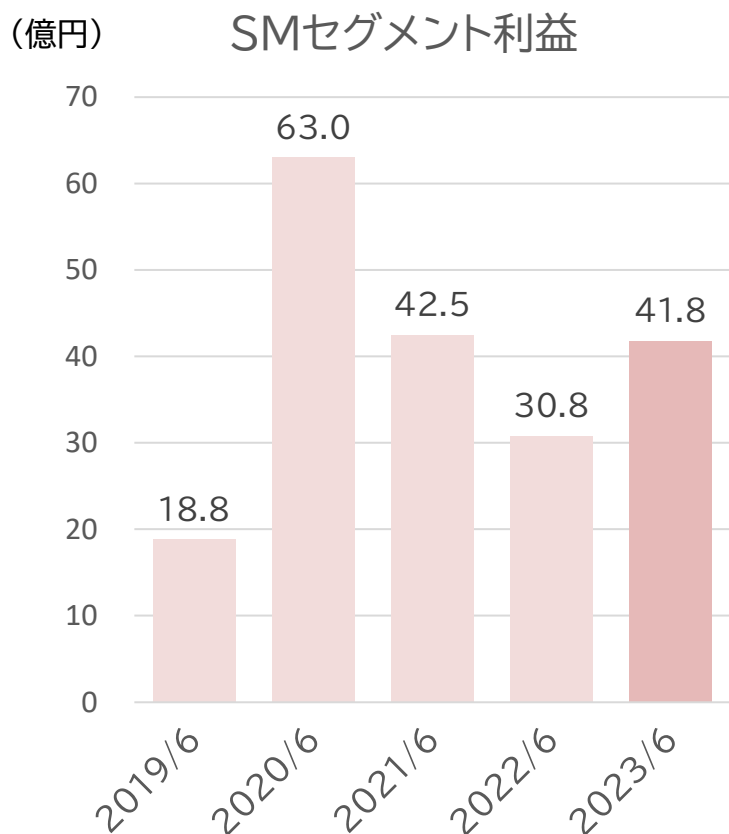
- スーパーマーケット事業は、新規出店、既存店売上高の好調もあり、増収増益
- ドラッグストア事業は、調剤部門及び化粧品部門の伸張、売上総利益率の上昇により、増収増益
- ホームセンター事業は、既存店の鈍化、資源価格の高騰による経費増加もあり、減収減益
- スポーツクラブ事業は、人件費や施設費などの売上原価の増加を吸収できず、営業損失が拡大

(金額単位:百万円)

	営業収益				セグメント利益			
	2021/6	2022/6	2023/6		2021/6	2022/6	2023/6	
	実績	実績	実績	前年 同期比(%)	実績	実績	実績	前年 同期比(%)
スーパーマーケット事業	100,518	102,054	107,777	+5.6%	4,253	3,086	4,181	+35.5%
ドラッグストア事業	38,018	39,370	41,947	+6.5%	630	789	1,155	+46.3%
ホームセンター事業	32,213	32,732	32,413	△1.0%	2,092	1,968	1,437	△26.9%
スポーツクラブ事業	2,386	2,447	2,371	△3.1%	△194	△225	△290	損失拡大
流通関連事業	2,404	2,664	3,966	+48.9%	816	887	873	△1.6%
その他	7,058	7,360	7,793	+5.9%	632	492	59	△87.8%
消去・全社費用					△1,775	△1,698	△1,795	
計	182,601	186,630	196,270		6,454	5,301	5,622	

スーパーマーケット事業

- コロナ禍前(FY2020/1Q)との比較では約23億円の増益水準
- 売上総利益率は27.7%→28.1%へ改善((株)バロー)



1Q業績分析(対計画比・対前期比変動要因)

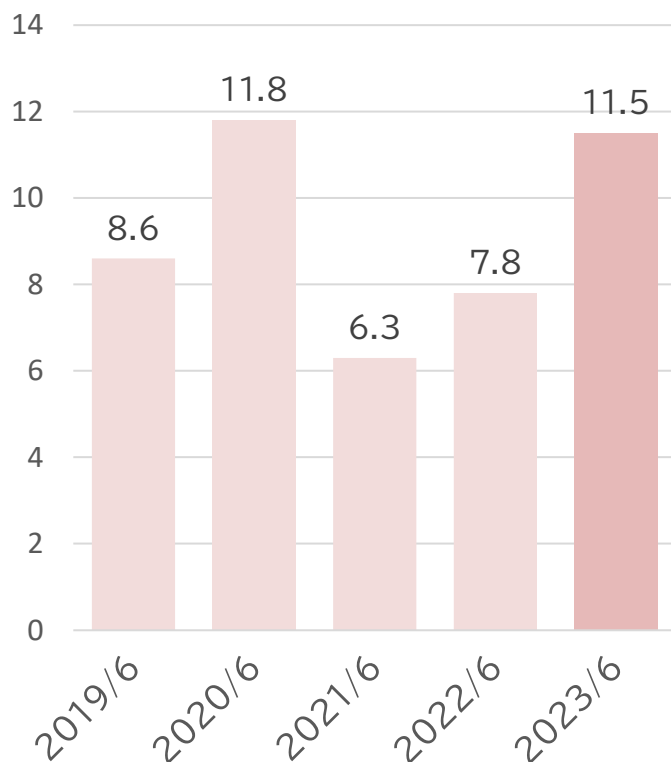
営業 収益	対計画比	+	既存店売上+2.8%
	対前期比	+	新店1店舗、改装9店舗 ((株)バロー)
営業 利益	対計画比	+	売上総利益率の改善
	対前期比	+	(株)バローに加え、(株)タチヤ、 (株)食鮮館タイヨー等のSM グループ各社においても増益

※+:増加・上ぶれ、▲:減少・下ぶれ、±:インライン

ドラッグストア事業

- コロナ禍前(FY2020/1Q)との比較では約3億円の増益水準
- 新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行の関連商品の鈍化の一方、医薬品、化粧品需要を捉え、既存店売上好調(+5.9%)

(億円) DgSセグメント利益



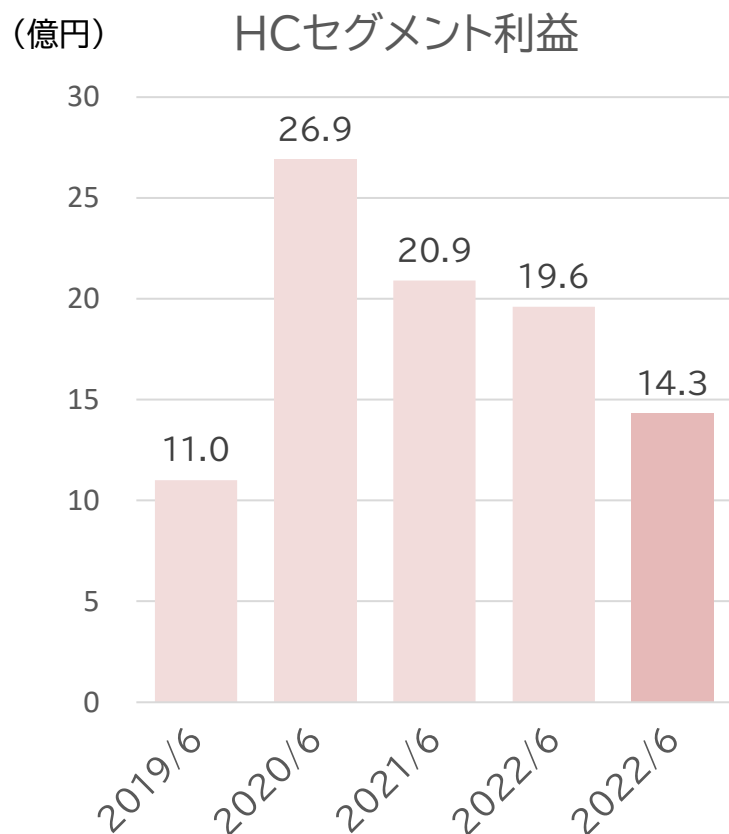
1Q業績分析(対計画比・対前期比変動要因)

営業 収益	対計画比	+	既存店売上+5.9%
	対前期比	+	インバウンド需要の回復による都心型店舗の好調
営業 利益	対計画比	+	販売費、施設費をコントロールし、賃上げ等の人件費への投資による収益力の改善
	対前期比	+	売上総利益率の改善 24.8%→25.1%

※+:増加・上ぶれ、▲:減少・下ぶれ、±:インライン

ホームセンター事業

- コロナ禍前(FY2020/1Q)との比較では約3億円の増益水準
- 新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴うお客様の意識、行動変化
- 原材料価格の高騰による対策が必要



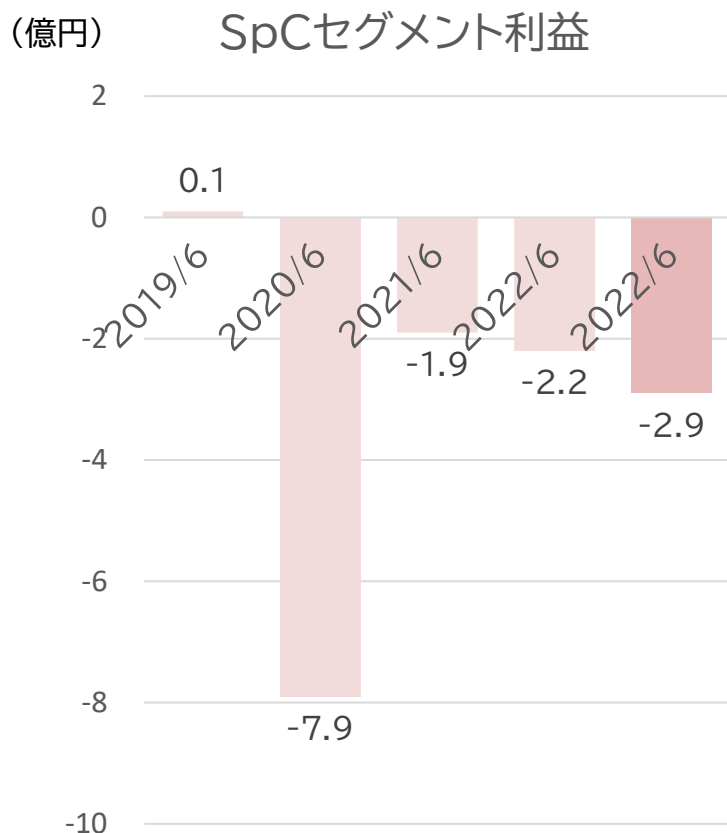
1Q業績分析(対計画比・対前期比変動要因)

営業 収益	対計画比	▲	商品価格の高騰。
	対前期比	▲	ダイユーエイトにおいて2022年3月に発生した福島県沖地震による補修資材、工具などの特需の反動。
営業 利益	対計画比	▲	経費コントロールは出来ているものの、トップラインが下がり、荒利高が減少。
	対前期比	▲	資源価格の高騰による水道光熱費などの経費増。

※+ : 増加・上ぶれ、▲ : 減少・下ぶれ、± : インライン

スポーツクラブ事業

- コロナ禍前(FY2020/1Q)との比較では約3億円の減益水準
- 会員数は1Qにおいて増加するも、商品売上は鈍化
- 早期の単月黒字化を目指す



1Q業績分析(対計画比・対前期比変動要因)

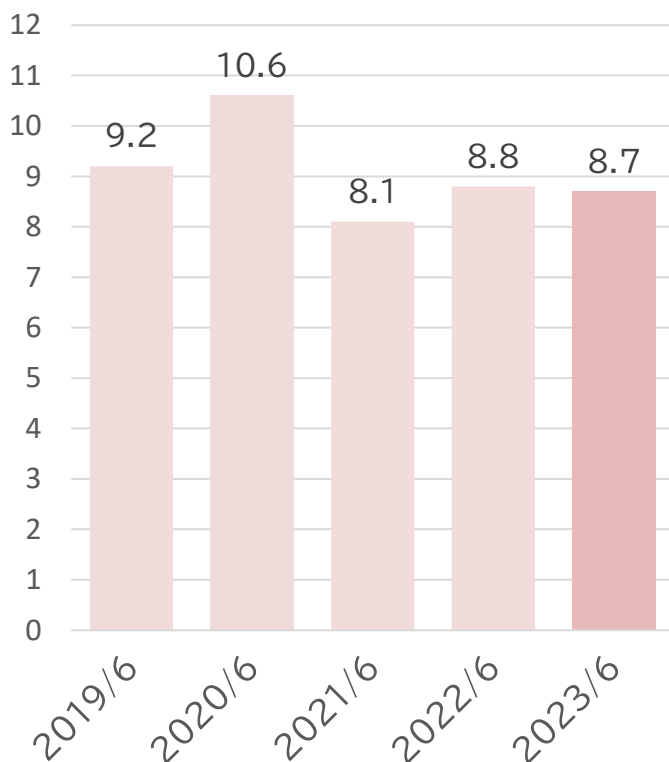
営業 収益	対計画比	▲	商品売上の鈍化。
	対前期比	▲	会員数は前期比増加。
営業 利益	対計画比	▲	人件費や施設費などの売上原価の増加。
	対前期比	▲	トップラインの減少。

※ + : 増加・上ぶれ、▲ : 減少・下ぶれ、± : インライン

流通関連事業

- コロナ禍前(FY2020/1Q)との比較では約0.5億円の減益水準
- 当期に子会社化した昭和フィルム社およびユニードパック社が寄与

(億円) 流通セグメント利益



1Q業績分析(対計画比・対前期比変動要因)

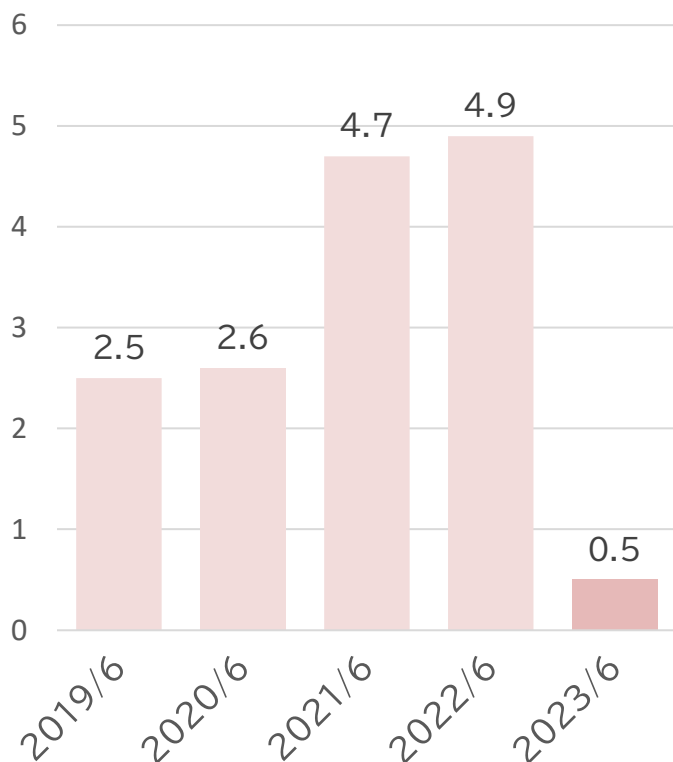
営業 収益	対計画比	±	主要事業の販売拡大で物量が増え、物流通過高増加。
	対前期比	+	子会社化企業の寄与。
営業 利益	対計画比	±	人件費の増加。
	対前期比	±	備品購入による販売費の上昇。

※+:増加・上ぶれ、▲:減少・下ぶれ、±:インライン

その他の事業 (ペットショップ事業、クレジットカード事業など)

- コロナ禍前(FY2020/1Q)との比較では約2億円の減益水準
- 4月から会員募集を開始した「Lu Vit クレジットカード」の販促費を含む

(億円) その他の事業 営業利益



1Q業績分析(対計画比・対前期比変動要因)

営業 収益	対計画比	±	ペットケージやサークルなどの関連用品の販売数が減少。
	対前期比	±	消耗品、犬・猫のおやつ、プレミアムフードは堅調に推移。
営業 利益	対計画比	±	キャッシュレス決済手数料や水道光熱費などのコスト増加。
	対前期比	▲	4月から会員募集を開始した「Lu Vit クレジットカード」の販促費など。

※+ : 増加・上ぶれ、▲ : 減少・下ぶれ、± : インライン

経営指標の推移

- ROA、ROE、総資産回転率が改善
- ROICの改善は課題

	2021/6	2022/6	2023/6
	実績	実績	実績
総資産経常利益率 (ROA)	7.2%	5.8%	5.9%
営業収益経常利益率	4.0%	3.2%	3.2%
総資産回転率 (回)	1.8	1.8	1.9
自己資本当期純利益率 (ROE)	10.6%	8.3%	9.0%
投下資本利益率 (ROIC) (注)	6.3%	4.8%	4.7%
自己資本比率	36.1%	35.8%	36.1%
D/Eレシオ (倍)	0.7	0.7	0.7
ネットD/Eレシオ (倍)	0.6	0.6	0.6

(注)ROICは税引後営業利益(税効果会計適用後の法人税等の負担率を使用)÷(有利子負債+自己資本+非支配株主持分)によって算出しております。

2024年3月期 通期業績見通し

- スーパーマーケット事業においては、「ネオデスティネーションストア」化を推進し、更なる収益性の改善を目指す
- ドラッグストア事業においては、店舗収益力の改善(調剤併設化・売場改装)、売上総利益率改善、生産性向上(自動発注システム)

(金額単位:百万円)

	2023/6		2023/9	2024/3
	実績	進捗率	計画	計画
営業収益	196,270	25.4%	384,000	772,000
営業利益	5,622	27.4%	9,900	20,500
経常利益	6,245	26.8%	11,300	23,300
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,453	37.1%	6,300	9,300
既存店売上高伸張率				
SM(株)バロー	+2.8%			0.0%
ドラッグストア	+5.9%			1.5%
ホームセンター	Δ2.7%			0.0%

店舗数および設備投資計画

- スーパーマーケット事業では、(株)バローが関西地域への新規出店を予定
- ホームセンター事業では、専門店の出店を中心に計画

(単位:店舗)	2023/3	2023/6			2024/3計画		
	期末	新設	閉鎖	期末	新設	閉鎖	期末
スーパーマーケット	316	1	-	317	5	-	321
惣菜専門店等	42	2	-	44	12	-	54
ドラッグストア	495	3	2	496	15	5	505
ホームセンター	161	-	2	159	6	2	165
スポーツクラブ (うちFC)*	184 (52)	2	5	181 (48)	2	8	178 (43)
ペットショップ	119	2	-	121	6	1	124
その他	5	-	-	5	-	-	5
店舗数合計	1,322	10	9	1,323	46	16	1,352

(*)2023年3月末予想の㈱アクトスのFC期末店舗数では、期中に直営へ転換したFC運営店舗を控除しております。

設備投資額(百万円)	25,995	-	-	-	22,838	※支払ベース
新規投資	13,464	-	-	-	12,121	
既存店投資	11,726	-	-	-	6,645	
その他	805	-	-	-	4,065	

- 本資料は情報の提供を目的とし、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料(業績計画を含む)は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものです。リスクや不確実性を含んでいます。当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- この資料の著作権は株式会社バローホールディングスに帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することをかたく禁じます。
- ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

創造先取挑戦

valor[®] Holdings

<https://valorholdings.co.jp/>